

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300076
法人名	株式会社 穂波
事業所名	グループホーム 柿の里
所在地	宇和島市柿原甲138番地1
自己評価作成日	平成26年3月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年3月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

柿畑のある静かな住宅地にあり、窓からは自然の景色を見ながら、のんびりと暮らしています。利用者さんの出来る事や、役割に目を向けながら、生き生きとはりのある生活を送っています。家庭的な雰囲気や大事にし、安心して過せるホームを目ざしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

2か月毎のご家族への送付書類とともに、事業所便りや行事等の写真を送付されている。その他のご家族からお手紙が届くこともあり、お返事する際には写真を同封して利用者の様子を伝えるようにされている。職員は、日頃からご家族への連絡やコミュニケーションに努めておられ、「面会を喜んでおられた」「会いたいと言われている」等と、利用者の気持ちを伝えることに取り組まれている。

体調が優れない利用者、他利用者が心配する様子が見られたが、職員は不安を和らげられるよう、笑顔で「大丈夫よ」と言葉をかけておられた。「仕事でホームに来ている」と思っている方は、夜間時「寝てしまえばいいよ。帰る」と言われることもあるが、今夜は泊りであることを伝え、ご本人が納得いくよう対応されている。ソファでは利用者同士の適切な距離をつくるため、間にぬいぐるみを座らせたり、利用者の得意なことが続けられるような場面を多く作り、利用者らしく暮らせるための支援に努めておられる。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### [記入方法]

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -  
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名

グループホーム柿の里

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏名

前田 祐子

評価完了日

26年 3月 10日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  開設時に職員で考えた介護理念を玄関に掲示しいつでも目の届くようにしている職員もよく把握できている。	
			(外部評価)  「いつも笑顔で 生き生きと 自分らしく」という事業所理念に沿って、ユニット毎に、「今期目標」や「月間目標」を立てておられる。管理者は、職員に「利用者はいつも職員を見ているので、職員の言い方や表情は利用者に鏡のように反射する」と話しており、職員は、状況に左右されることなく、常に笑顔で声かけするよう、心がけて取り組まれている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  今年度(H25年)は自治会班長を引き受け利用者と一緒に広報配布等を行った。地域の行事に参加したり、ホームの行事(納涼祭)等、地域の方に声掛け参加してもらっている。地元の高校生もボランティア協力してもらった。	
			(外部評価)  事業所では今年度、自治会班長を引き受け、事務長と利用者が各戸に広報誌を配る等活動された。自治会の清掃活動時には、車いすを使用する利用者も出かけて草引きをされた。利用者は偶然居合わせた若者に声を掛け、一緒に草引きするような場面も見られたようだ。事業所主催の納涼祭は、地域の方々が広報等してくれて、ボランティアの協力もある。又、子ども達も毎年楽しみに参加してくれている。自治会主催の「柿原フェスティバル」では、柿の里のコーナーを設けてくださり、利用者の作品を出展し、好評だったようだ。その他にも、公民館の朝顔展やしゃべり場に参加したり、幼稚園とは行事を通じて交流を続けておられる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  柿原地区の柿原フェスティバルに始めて利用者の作品(昔の絵日記、折り紙、習字、ぬり絵など)を出展した。地域の人の見学者も昔を懐かしみ会話がはずんでおり利用者も地域の人との交流が出来て楽しい一時を過ごすことが出来た。 市が主催の認知症フォーラムが柿原地区で開催され当ホームからも参加し地域の人に認知症を理解してもらえる良い機会をもつ事が出来た。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護現場での困難に感じていること等を議題に入れる事で色々アドバイスをいただきサービス向上に努力している。出席者の幼稚園教諭より園児がお年寄と関わる事で、優しさを学び人権教育が出来ていると嬉しい言葉を頂いている。</p> <p>(外部評価) 会議には、自治会長、市の担当者、地域包括支援センターをはじめ、地域の方やご家族、交流のあるグループホームや幼稚園の先生等が参加されている。会議では、事業所から活動や利用者の状況について報告を行い、意見交換されている。柿原フェスティバルへの出展作品について自治会長から「温かみがあって良い」と感想をいただいたり、「来年もぜひ参加してほしい」という地域の方の声等も伝えていただいた。交流のあるグループホームには、防災対策の取り組みを紹介していただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 包括支援センター、保護課、介護保険係、生涯学習センター等、担当者の方とはこまめに連絡をとったり、相談にのってもらっている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時、市の担当者や地域包括支援センターから、研修や講演会等の情報提供がある。センターが取り組むオレオレ詐欺の寸劇や徘徊シミュレーションには、事業所も参加し協力されている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束防止に取り組んでいるが、転倒の危険が高い利用者(見守りの無い時に元気だと思い込み移動しようとする。再々転倒している方)の場合、家族と話し合いをし車椅子に安全ベルトを使用させてもらっているケースがある。転倒防止を柵に頼るのではなくセンサーや鈴の利用で早めに居室の訪室ができるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 以前、利用者の落ち着かない状態がみられ、門扉を施錠した時期もあるが、現在は開錠されている。利用者の様子を観察して、手持無沙汰な様子が見られた時には、ドライブや買い物に誘う等の対応を重ねられ、状態がじょじょに落ち着かれているようだ。利用者の病状によっては、車いす利用時に安全ベルトを付けているが、ご本人の意思表示があれば外して職員が見守り、又、椅子に座る時間をつくることにも取り組まれている。身体拘束の必要性については、今後も、職員で話し合いを重ね、身体拘束をしないケアに向けた取り組みをすすめていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 外部の虐待研修参加は出来なかったが、新聞記事を利用し職員1人1人に資料を配布したり、日頃のケアを振り返るように話し、意識づけをしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用されている方はいないが、必要性がある時に充分活用が出来るよう、今後学ぶ機会を設けたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には時間が必要である事を前もって伝えておき十分な説明と家族、利用者の気持ち、要望等を聞くようにしている。見学、面接、入所時に十分にコミュニケーションをとれるよう努力している。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時の面会用紙に家族の意見を記入してもらう欄を設けている、又面会やご家族に電話を掛ける機会を利用し家族と十分にコミュニケーションを取り、意見や要望を聞き信頼関係を築けるようにしている。 (外部評価) 2か月毎のご家族への送付書類とともに、事業所便りや行事等の写真を送付されている。その他のご家族の方からお手紙が届くこともあり、お返事する際には写真を同封して利用者の様子を伝えるようにされている。職員は、日頃からご家族への連絡やコミュニケーションに努めておられ、「面会を喜んでおられた」「会いたいと言われている」と、利用者の気持ちを伝えることに取り組まれている。市主催の「認知症家族の会」にご家族が参加され「もっと大変な人がいることが分かり考え方が変わった。他の家族も参加したらよいのでは」と言うような感想もあった。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議や申し送り等の時、職員の気付きや意見を聞いている。問題点や緊急のとり決めが必要な時は臨時の職員会議を開くなどを行っている。又普段から職員とコミュニケーションをとり意見や提案を聞くようにしている。連絡ノートの活用で情報の共有をしている。	
			(外部評価) 毎月のユニットごとのミーティングや、2ヶ月毎の全体ミーティング時に、職員で意見や気付きを出し、話し合っておられる。利用者個々に担当職員を配置し、責任を持って利用者にかかわる仕組みをつくっておられ、一年ごとに交代して、いろいろな利用者とかかわる仕組みになっている。職員が外部研修を受講する際には、施設長が勤務をフォローし、個々がスキルアップできるようサポートをされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 施設長も一緒に勤務をする時もあり勤務状況の把握に努めている。資格を取る事で仕事のやりがいや、収入増につながる為、研修参加がしやすいように配慮している。今年度は介護福祉士受験者が多かった。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 資格をとる為の研修参加はできる限り時間を都合し行ってもらっている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡会にも参加し交流の場を大事にし、困っている事などアドバイスをもらっている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前の面接時や関わりの開始時に現場の主任やスタッフが一緒に行き利用者さんの状況把握し関係作りを大事にしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学、面接時からのコミュニケーションを大事にしている。入所時はこまめに連絡をとり報告し、家族の要望や気をついた事などを聞くように心がけている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 最初の対応は、施設長、管理者、主任、ケアマネなどそれぞれの立場で家族、本人と関わりをもち、検討するように努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒に洗濯物を干したり、ゴミを出したり、シーツ交換や洗濯物をたたむなど、できる事をしていただいている。スタッフも手伝ってもらった時は「助かりました。ありがとう」と感謝の気持ちをきちんと表している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ホームの行事参加や面会時には家族と話をするよう心がけ、状況を伝え、気がついた事など要望も聞き、次回の面会を楽しみにしていると本人にかわり、伝えている。受診時には同行できない家族にはこまめに連絡をとっている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会に来られた様子などをお聞きし利用者さんとのコミュニケーションにも取り入れ支援する事もある。 (外部評価) 毎月、ご家族が迎えに来られ、病院受診に出かけ、ご自宅で泊まって戻って来る方がおられる。ご自宅に戻った時には、行きつけの美容院を利用されるようだ。利用者が配偶者の通夜・葬儀に参列する際、事業所で送迎することもある。利用者は「世話をかけたなあ」と言葉をかけたり、添い寝する等してお別れされたようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士のトラブルにならないよう、職員が間に入ったり、席替えも配慮し雰囲気作りに努力している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の施設入所や入院となった方は面会に行ったりご家族の様子をお聞きする事もある、その後の状況把握に努めている。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一緒に買い物に行ったり、絵を描く時間を作ったり、意向に添うようにしている。 (外部評価) 使いやすく介護計画と連動するようなアセスメント様式をつくり、まずは、新しい利用者から利用を始めておられる。入居に際しては、管理者、主任、事務長等、数名が何回か面接を行い、ご本人・ご家族から暮らしやケアについての希望をお聞きしている。知り得た情報は「利用者台帳」にまとめ、ご家族に記入してもらえよう、要望欄も作っておられた。新たに、誕生、結婚、認知症発症、入居時の状況等、おおまかな生活史をまとめた「面会調査表」を作っておられた。以前から使用しているセンター方式の「私の姿と気持ちシート」は、ある程度情報を集めた後に書き込むことにされている。	新たなアセスメントの取り組みから、今後さらに利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握してその人らしく暮らし続ける支援につなげ、取り組みをすすめていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 最初の面接時の情報や家族からの聞きとりの重要性を感じている。又日々の入所後の暮らしから得られる情報、会話からの気付きや面会時に家族から教えてもらいながら、把握するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1人1人のリズムに気をつけながら、リビングで皆と過ごす時間には楽しいレクリエーションの提供を心掛けている。体調に合わせて部屋で過ごしてもらうよう声かけする事もある。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 家族の来所時のタイミングに合わせて話し合いが出来るようにしている。職員にはプランに目を通してもらい具体的ケア等、意見を聞きながら計画を立てている。入所の方がある時は1、2F合同職員会議で入所者の方の状況プランを伝え、職員全員に協力してもらえるようにしている。</p> <p>(外部評価) 体重増加と脚力低下がみられ「できるだけ歩かせてほしい」とご家族の要望もあり、医師の助言、利用者ご本人の出来ること等を踏まえて「ゆっくり廊下を歩く」ことを介護計画に採り入れ、支援している事例がある。日々の介護記録と、新たに毎月「計画実施表」をつくり、さらに「ケアチェック表」も合わせてモニタリングされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 申し送りを重要視し状況の把握と連絡ノートの活用をしている。日々の生活で出来る事、いつもと違った事などその都度話し合い、ケアマネ職員間で情報の共有を行いケアの実践につなげている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 認知症家族の会にご家族と一緒に参加し、家族の思いを知り支援につなげていく努力をしている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 近所の花屋、観葉植物園に散歩の途中見学させてもらえるよう話が出来て、散歩コースにして楽しませてもらっている。公民館の活動の朝顔展出品やカラオケ、フラダンス、保育園児との交流、ボランティアの方々の協力を得ながら楽しい暮らしの支援に努めたい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、 納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を 築きながら、適切な医療を受けられるように支援 している	(自己評価) 病院受診時は状態の報告書を看護師が記入し受診時に持 参している。本人、家族の希望に応じてかかりつけ医を受 診している。パーキンソン病での薬のコントロールが重要な 方も家族の協力を得ながら受診を続ける事が出来ている。	
			(外部評価) 職員が利用者の変化に気付き、ご家族に連絡して受診を 支援することが多く、事業所の対応にご家族も安心されて いる。持病のある方は、協力医と専門医が連携して状態や 薬の調節等をしてきている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報 や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師 等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受 診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 日々の関わりで変化や不安な事があれば報告、連絡、相談 をし、適切な受診や看護をうける事が出来ている。 朝の申し送り時は、看護師も出席して状態把握に努めてい る。何か変化があれば、24時間体制で対応し、相談を受 け、連携医とも連絡を取り、指示を受け、受診等の対応をし ている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、 病院関係者との情報交換や相談に努めてい る。または、そうした場合に備えて病院関係者との 関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時に生活歴等要約を持参し情報交換を行っている。安 心して入院生活ができるよう家族への連絡や病院関係者との 関係作りにも協力し、面会にも再々足を運んでいる。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早 い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事 業所でできることを十分に説明しながら方針を 共有し、地域の関係者と共にチームで支援に 取り組んでいる	(自己評価) 入所時に重度化や終末期についての説明をきちんと行っ ている。看取りについても本人、家族に確認しているが状態 の変化もある為、機会があるごとに確認を行っている。看取 りについては、家族の希望があれば行っている。	
			(外部評価) 入居時には、事業所の看取りの方針について説明して、重 度化した場合の支援について希望を聞いておられる。ほと んどの方は「入院しないで最期までここで過ごしたい」と希 望されており、中には「最後の1週間は自宅に連れて帰りた い」と希望する方もあるようだ。利用者の状態変化時には、 再度意思確認を行い、利用者やご家族の意向に沿った支 援に努めておられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 体調変化に早めに気付くよう日々の状態把握は十分に行っている。急変や事故があった時は、その都度、職員会で報告、対策を話している。定期的に訓練は行えていない為、あわてる事のないよう訓練を計画に入れる必要がある。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の消火避難訓練を実施しているが、あわてる事のないよう状態の設定を色々変えて今後も訓練計画を立てる予定。 地域の協力体制については自治会や住民の方との関係作りが重要と考えている。自治会の訓練にも参加を予定して (外部評価) 11月には、消防立会で日中想定火災訓練を実施された。職員が利用者役になり、2階の非常階段からの避難誘導や毛布での搬送、水消火器での消火訓練を体験し、課題を明らかにされた。消防署の方からは、「非常階段の降り口に單車や自転車が置いてあるので降りられない」と指摘があり、その後、コーンとバーを設置してスペースを確保された。備蓄については、水・乾パン・加熱いらずのカレー等、数日分を用意している。	今後、敷地内に、備蓄用の倉庫を設置する予定となっており、備蓄の増量等を検討されている。さらに、地域の自主防災の取り組みにも参加する予定となっている。事業所の立地条件等も踏まえ、又、いろいろな災害を想定して、地域の方達と協力し合えるような体制作りをすすめていかれてほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の状態や状況の把握に努め、不穏や暴言がでないように配慮し穏やかに過せるよう努力している。 (外部評価) 体調が優れない利用者、他利用者が心配する様子が見られたが、職員は不安を和らげられるよう、笑顔で「大丈夫よ」と言葉をかけておられた。「仕事でホームに来ている」と思っている方は、夜間時「寝てしまよかった。帰る」と言われることもあるが、今夜は泊りであることを伝え、ご本人が納得いくよう対応されている。ソファでは利用者同士の適切な距離をつくるため、間にぬいぐるみを座らせたり、利用者の得意なことが続けられるような場面を多く作る等、利用者らしく暮らせるための支援に努めておられる。花札、カラオケ、四字熟語ゲームを皆で楽しんだり、詩の朗読やかきた・百人一首の読み手をしてくれたり、毎日天気予報を教えてくれる方もおられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自己決定できやすい声掛けをするなど気をつけている。外出時の洋服選びや散歩レクリエーションなど職員本位にならないよう注意している。外出時は食事の楽しみもありメニューを選んでもらったり、食後のコーヒーも自由に注文したりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) テレビやラジオを楽しみにしている方、散歩に再々出たい方など、その人のペースも大事にしているが、体調悪化につながらないよう生活のリズムには配慮している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 清潔保持には気を配り、美容師の資格を持っている職員が数人いるので、こまめにカットをしている。女性利用者にはマニキュアを塗って喜ばれたことがある。男性利用者の髭剃り等も入浴時に行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日のメニューをボードに書き分けるようにしている。好みのメニューがあると、楽しみにされたり知らないメニューを見つけると、これはどんな物と聞かれたりすることもある、職員も利用者の好みを把握している。時々、外食やお弁当の時もある。 (外部評価) 献立を大きな字で書いたホワイトボードは、利用者がダイニングテーブルの席に座って読みやすい高さに掲示されている。朝食の主食は、パンとご飯を選べるようになっていいる。調査訪問時の昼食は、四色どんぶり、豆腐の酢味噌あえ等で、彩りもよく、郷土料理に使われる「酢味噌」は、職員の手作りで酢を使う際には、むせないよう酢を加減し、利用者が好む甘めの味付けにされている。利用者は、時には野菜の下ごしらえをされており、食後には、ご自分のお膳を下げたり、他利用者をお世話する方も見られた。ご自分の席の横の椅子に、大きなぬいぐるみを座らせておくと安心して食事するような方もいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量、食事摂取量チェックをしない時は体調には十分気を配っている。水分をこまめに摂取できるよう声掛けやペットボトルにお茶を入れ、渡して飲んでもらっている人もある。なかなか水分を取らない方は汁物で補ったり、再々の声掛けやタイミングをみて飲んでもらっている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には必ず口腔ケアを行っている。義歯の方も自分で磨いてもらい、介助のいる方も見守り声掛けで出来ることはしてもらおうよう支援している。入れ歯の方は、ポリドントを使用している。利用者の歯の状態を把握し、必要であれば歯科受診をしている。	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価) 紙パンツ使用していない方のトイレ自立が維持できるよう、失禁防止体操等(ベルト使用しての体操)を取り入れている。</p> <p>(外部評価) 利用者の目の高さ、トイレの表示を付けておられる。手作りの台や手すり等を使って、排泄時に立ち上がりや座位を保持できるよう支援されている。手洗い時、壁面のペーパータオルボックスに、頭をぶつける利用者が多かったため、位置をずらして設置された。又、扉をカーテンに付け替えているところもあり、プライバシーに配慮し二重カーテンにされていた。入居前、車いすを使用して生活していた方は、杖や手すりを使いながら歩行訓練することで、現在は歩行器を使用し、ご自分でトイレで排泄されている。個々の状態でパンツの種類やパッドの使用を工夫し、排泄用品代が減らせるようにも努めておられる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 水分、食事、運動など気をつけているが運動不足になりがちで便秘傾向の方がおり、服薬コントロールしている人もいる。タイミングをみてトイレ誘導する事で排便できる事もあり、日々の状態観察には気を配っている。薬のコントロール、便秘、下痢症状に注意して支援している。</p>	
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価) 声掛け時、気分が乗らない場合は時間をずらしてみたり、後日声掛けし入浴してもらうなど配慮している。風呂場、脱衣場の温度差にも気をつけている。</p> <p>(外部評価) 午前・午後、どちらでも選んで入浴できるようになっている。調査訪問時、脱衣所に暖房を掛けていつでも入浴できるように準備されていた。入浴を嫌がる方には、無理強いせず、体重を測るため脱衣所にお誘いしたり、相性の良い職員の勤務に合わせて支援されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 居室の明るさ、温度や湿度の調整をしているが、エアコンが嫌な利用者もいるので声掛けして対応している。眠れない利用者は、医師、本人と相談して、薬を使用している方もいる。</p>	



自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の変更になった際は連絡ノートの活用や処方箋の確認を行い理解に努めている。服薬内容はチェックし服薬はきちんと飲む事を確認し間違いのないよう注意を払っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 編み物の時間、絵を描く時間を楽しんでいる方、他の利用者さんのお世話や、やさしい声掛けを自分の役割と思っている方などその人に合わせて見守りをして支援している。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとに花を見に出かけたり、神社にお参りしたり、レストランなどにも行き好きなものを選んで食べたりと気分転換のために外出している。 (外部評価) 季節の花を見に、ドライブがてら外出することが多い。桜が咲く時期には、神社や公園、ダム周辺や川沿いの遊歩道等、お花を楽しむ機会を何度も設けておられる。遊歩道では、すれ違う人に挨拶したり、知り合いに合うこともある。外食にもよく出かけており、レストランで定食等好きなものを各自で注文したり、回転寿司も人気のようだ。又、職員と通院や買い物帰りの際には、スーパーの休憩コーナーでお茶を楽しまれることもある。外出や外食に出かける際にはご家族の参加もよくあり、子どもやお孫さんも一緒に過ごす機会にもなっている。外出に気がすまないような様子があれば、体調不良なのか、一時的な気分なのか決めつけないで見極めて支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は事務所でやっているが、お年玉、お賽銭、買い物などの支払いは利用者さんに行ってもらったり、お祭りのご祝儀など渡す楽しみも取り入れ支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけてほしいと頼まれて電話したり、手紙を書いたので郵便に出してほしいと頼まれる事もある。プライドを傷つけないよう字の誤りや住所等は横に手直しを加えて送らせてもらう事もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>庭や玄関に亀、メダカ、金魚を飼っていて利用者も時々、観察している。リビングには季節ごとに手作りで飾り物を作って飾ったり、廊下横のボードには、写真を貼ってあり、足を止めて見られるようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>庭には梅の花が咲き、囲いをつくり、亀を飼育されている。玄関の大きな壺には、こでまりやレンギョウの枝を活けておられた。玄関前のスロープは、手すりを付け、利用者がスリッパのまま外に出られるようになっており、自宅から持参した観葉植物の鉢に水やりをしたり、日向ぼっこ等して過ごされている。居間の壁面には、利用者と職員がつくった桜の貼り絵や行事の写真が飾られていた。又、ご家族が描いた日本庭園「南楽園」の絵も飾られていた。調査訪問時、絵の得意な方がスケッチブックを開いて、自画像や他利用者を描いた絵を見せてくださった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用スペースでは、それぞれ利用者の居場所があり、思い思いにすごしたり、気の合った利用者同士がいつでも、話をしたりマッサージチェアにかかったりして過している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>タンス衣類等、持ち物の多い利用者さんも入所時、受け入れ出来る物は今までの雰囲気が変わらないよう、持ってきてもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室には、洗面台、ベッド、クローゼットが備え付けとなっている。ご自宅から持参した鉢植えの寒ランがきれいに咲いており、香りが広がっている居室もあった。洋服店を営んでいた方は、ご自分で仕立てた洋服を何着かハンガーラックにかけており、毎朝ご自分で洋服を選んでおられる。調査訪問時には、手慣れた様子で衣類をたたみ、タンスにしまっておられた。亡き夫との記念写真やご家族の写真を飾っている方もおられる。居室の入り口にはネームプレートを掛けているが、ご自分の居室が分からなくなる方には、名前を大きく書いた紙を扉に貼っておられた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>歩行状態に合わせて杖や歩行車、歩行器、車椅子など一人一人、運動機能の維持を目標にして安全な移動が出来るよう、見守りをしている。</p>	